

令和 7 （2025） 年度 経営協議会の学外委員からの意見等に対する対応状況

開催回	審議/報告/ 意見交換	議題	学外委員からの意見	取り組み事例
第2回 (R7.10.14)	報告	令和 8 （2026） 年度概算要求の経過報告について	企業との連携を生かした新たなファンディングソースを獲得するための自助努力が必要である。	令和8年度には会費制の産学官コンソーシアムを立ち上げた。組織的なネットワークと会費収入を活用して、新たな連携とファンディングソース獲得の足場にする構想である。
第2回 (R7.10.14)	報告	「お茶の水女子大学創立150周年記念大学経営ビジョナリー育成プロジェクト」実施報告について	海外研修では現地で勤務する邦人以外の方とも交流することが望ましい。	2026年9月に実施予定の「ビジョナリー育成プロジェクト」米国研修では、エバメイ財団、ノースイースタン大学、シェナンドー大学等を訪問し、現地の大学、研究機関、企業等に所属する多様なバックグラウンドを持つ研究者、実務家、リーダー等と、英語による意見交換や交流を行う機会を設けるプログラム内容とした。これにより、参加者が現地の邦人以外の関係者とも直接対話し、大学経営、研究環境、リーダーシップ育成等について多角的な視点から学ぶことができる、より充実した研修内容となるよう改善した。
第3回 (R8.1.20)	審議	令和 8 （2026） 年度学内予算編成方針（案）について	「サスティナブルキャンパスの実現に向けた整備」について、インフラの長寿命化や照明のLED化には初期費用は発生するものの、省エネ効果や学習環境の改善が見込まれるため、早期実施が有益であるとの助言があった。	令和8年度当初予算において、照明設備のLED化に係る経費を積極的に確保し、計画的な省エネルギー化と教育研究環境の向上に取り組んでいる。
第3回 (R8.1.20)	意見交換	本学におけるコンピテンシー育成の取組について	学生のコンピテンシーがどのくらい伸びたのかという「学修成果の可視化」が一番の課題である。コンピテンシーの要素を示すだけでなく、「学修成果の可視化」が求められているため、経年変化を測定し、お茶大がリードして研究を進めることを期待している。	2024～2026年度、毎年度コンピテンシー検査に回答した学生について、お茶大コンピテンシー10の得点の経年変化に関する分析に取り組み、批判的思考力、協働力、創造的思考力、省察的思考力、エージェンシーの得点が有意に上昇していることを見出した。